



録画配信の
2次元コード

関根 弘樹
公明党

下水道の老朽化、 どのように対策を進めるか

Q 市内で耐用年数50年を超える下水道管は何kmで、下水道管の総延長距離に占める割合は。また、10年後、20年後にはどの程度増える見通しか。

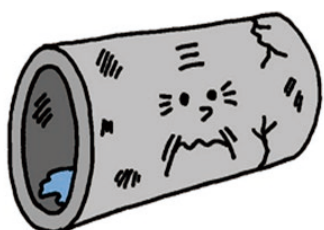
A 上下水道部長 耐用年数を経過した公共下水道管は、污水管と雨水管を合わせ、約83kmで、市内の公共下水道管の総延長約542kmの内、割合は約15%。10年後には、181kmと見込まれ、約33%。20年後には約366kmで約68%になる。

Q 耐用年数を超える下水道管に対して行うテレビカメラ調査とは。

A 上下水道部長 テレビカメラ調査は人が入れない管路に自走できるテレビカメラ車を使用して劣化状況を確認するもの。人が入れる大口径管は、人が直接目で見て確認している。令和6年度は、狭山台地区を中心に約5kmを調査し、令和10年度までに狭山台地区及び入間川地区を中心に約11kmを調査する予定。

Q 下水道管の点検頻度を増やすことについて、市としての考えは。

A 上下水道部長 下水道法施行令で腐食しやすい箇所は5年に1回の点検が定められており、本市も計画的に実施している。国では八潮市の道路陥没事故を踏まえ、点検手法や頻度等の在り方について現在検討中であり、新たな基準が示された場合は速やかに対応する。



老朽化対策がますます重要に



録画配信の
2次元コード

船川 秀子
公明党

精神障害者福祉の充実について 電子書籍の導入について

◆精神障害者の相談体制と支援体制の強化

Q 相談人数が増加していることへの対応は。

A 福祉部長 相談業務は、障害者基幹相談支援センター及び市内3カ所の相談支援事業所で対応している。また、基幹相談支援センターから事業所に専門的な指導や助言を行い相談対応の充実、相談支援機能の強化を図っている。

Q アウトリーチ型、伴走型支援体制の強化は。

A 福祉部長 強化の一つに精神保健福祉士などの専門職の確保が必要であり、障害者基幹相談支援センターや市役所関係各課に配置し、アウトリーチ型や伴走型支援体制は整っている。しかし、ひきこもりや近隣への迷惑行為、支援拒否などの解決が困難な相談が増え複雑化しているため、精神保健分野の専門職の配置は重要と認識している。

◆電子書籍の導入

Q 導入について期待することは。

A 教育長 電子書籍は、どこでも利用できるため若年層や社会人の利便性の向上につながる。音声読み上げ機能や文字の調整が可能のため、視覚障がい者や高齢者の読書の機会を提供する一つの方策となり、市民の学習、調査研究等の一層の支援が期待できる。図書館システムの更新に併せ、導入コスト、運営体制などの課題を踏まえ導入を検討していく。



その他のテーマ▶学校と図書館との連携事業・配慮が必要な方への図書館の環境整備